

高崎市・安中市消防組合構成両市の沿革

高崎市〈変革する高崎〉

高崎市は、群馬県の中西部に位置し、東は前橋市、玉村町、埼玉県上里町、西は長野県軽井沢町、南は安中市、富岡市、藤岡市、甘楽郡甘楽町、北は渋川市、北群馬郡、吾妻郡に接しています。また、日本列島のほぼ中央部にあり、東京へ約100km、新幹線で約50分という位置にあります。

平成18年1月23日に群馬郡倉沢村・同郡箕郷町・同郡群馬町・多野郡新町、同年10月1日に群馬郡榛名町、平成21年6月1日に多野郡吉井町と合併し、面積459.16km²、人口約37万人を擁する都市となり、より充実した行政サービスの実現と、一層の地方分権を図ることを目的に、平成23年4月1日に中核市へ移行しました。

また、市は古くから交通の要衝として発展し、近年では平成23年3月19日の北関東自動車道の全線開通や、平成27年3月14日の北陸新幹線の金沢市までの延伸開通により、人・もの・情報が行き交う都市として県内だけでなく、上信越・北陸地域の発展においてもますます大きな役割が期待されています。

そのほか、高崎市の特性として、高崎音楽祭や高崎映画祭など市民文化活動が盛んに行われていることや、6つの大学と3つの短期大学が存在する「大学の街」であることなど、豊かな文化性と知的資源といった、まちづくりの可能性を広げる貴重な財産を有しています。

安中市〈みんな元気で いきいき暮らせる 市民総働のまち あんなか〉

安中市は、群馬県の南西部に位置し、東と北は高崎市、西は長野県軽井沢町、南は富岡市と下仁田町に接しています。

平成18年3月18日に旧安中市と旧松井田町が新設合併し誕生した「安中市」。古くは東山道、近世には中山道の宿場、関所がおかれるなど交通の要衝であり、現在はJR北陸新幹線、JR信越本線と、上信越自動車道、国道18号線が東西に走る利便性を活かし、交通・輸送の要所としての一翼を担っています。

面積は276.31km²、人口は約5万8千人であり、首都圏の奥座敷的位置にあり、妙義山をはじめとする豊かな自然環境を有するほか、磯部温泉、秋間梅林などの観光資源や、碓氷関所跡、碓氷峠鉄道遺産群などの史跡等にも恵まれており、観光事業の発展、交通の便を利点とした商・工業の充実などのために、様々な施策が進められています。

高崎市等広域消防局の沿革

高崎市及び安中市の2市は、従来から交通や経済など住民生活の上で非常に関連の深い圏域となっていました。そして最近の交通・通信手段の著しい発達により益々その度合いを深め、市の行政区域をこえた広域的な社会生活圏を形成するようになっていきます。

このような中で、この圏域は、昭和45年に国の広域市町村圏振興整備措置要綱により、広域市町村圏の指定を受け、消防も広域行政として昭和46年4月1日に消防業務のみを行う一部事務組合として設立されました。その後、平成11年4月1日に、同じ圏域を持つ消防組合と広域圏組合が統合し、高崎市等広域市町村圏振興整備組合として、また、消防本部の名称を、高崎市等広域消防局と変更して次の時代を担う消防機関として発足しました。

平成24年4月1日からは、高崎市等広域市町村圏振興整備組合の共同処理する事務の変更に伴い、組合名称を高崎市・安中市消防組合に改め、さらに、多野藤岡広域市町村圏振興整備組合との新町地域の消防事務委託を廃止し、高崎東消防署新町分署を開設しました。

昭和46年4月1日	高崎市を拠点都市として群馬町、箕郷町、榛名町、倉渕村、松井田町の1市4町1村をもって高崎市等広域消防組合が発足し、高崎市消防本部を組合消防本部とし、高崎市内の1署3分署に加えて同日より群馬町及び松井田町に分署を開設した。消防職員44人を増員し、職員数173人となる。
昭和47年3月13日	群馬県指令地第69号により安中市の高崎市等広域消防組合加入が群馬県知事より許可される。
昭和47年4月1日	安中市の加入により従来の安中市消防本部を解散し、安中市消防職員49人をもって、高崎市等広域消防組合安中消防署とする。
昭和47年4月1日	消防職員47人を増員し、安中市消防職員を含め職員数269人となる。
昭和47年4月1日	榛名町、箕郷町、倉渕村にそれぞれ分署を開設し1分署に17人の職員を配置する。
昭和48年7月16日	箕郷町分署庁舎鉄筋コンクリート造平屋建202.75㎡、総工費11,200,000円が完成し移転する。
昭和48年10月1日	消防職員6人を増員し、職員数275人となる。
昭和49年10月1日	消防職員4人を増員し、職員数279人となる。
昭和52年4月1日	高崎東消防署を開設、鉄筋コンクリート造2階建934.46㎡、総工費78,000,000円。消防職員25人を増員し、職員数304人となる。
昭和53年4月1日	安中消防署郷原分署を開設、鉄筋コンクリート造平屋建243.73㎡、総工費31,122,000円。消防職員9人を増員し、職員数313人となる。
昭和54年4月1日	高崎北消防署を開設、鉄筋コンクリート造2階建942.22㎡、総工費117,352,000円。消防職員25人を増員し、職員数338人となる。
昭和55年4月1日	警防課から通信指令室を分離独立、通信指令課を開設
昭和55年7月1日	消防職員2名増員し、職員数340名となる。
昭和56年4月1日	関越自動車道の開通に伴い高崎東消防署群南分署を開設。鉄筋コンクリート造2階建277.36㎡、総工費55,423,000円。消防職員6人を増員し、職員数346人となる。
昭和60年4月1日	高崎中央消防署西分署を開設、鉄筋コンクリート造平屋建255.24㎡ 総工費50,657,000円。消防職員9人を増員し、職員数355人となる。
昭和63年9月3日	消防本部、高崎中央消防署庁舎建設工事着工
昭和63年12月6日	高崎北消防署榛名町分署庁舎、完成移転。鉄筋コンクリート造平屋建291.55㎡ 総工費68,501,800円
平成元年10月2日	消防本部、高崎中央消防署庁舎、完成移転する。庁舎棟、鉄骨鉄筋コンクリート造3階建1,644.86㎡、車庫棟、鉄骨造2階建1,196.40㎡、総工費（訓練塔を除く）812,751,610円
平成2年3月31日	高崎中央消防署訓練塔完成。A塔、鉄骨鉄筋コンクリート造9階建457.24㎡ B、C塔、鉄骨造総工費76,446,600円
平成2年3月31日	消防本部、高崎中央消防署外構工事、附属建物工事、整備棟工事完成
平成2年2月10日5日	高崎中央消防署空気充填室完成。補強コンクリートブロック造平屋建11.35㎡ 総工費5,219,010円

平成 3 年 2 月 22 日	安中消防署松井田町分署庁舎完成移転。鉄筋コンクリート造平屋建336.53㎡ 総工費114,909,899円
平成 4 年 4 月 1 日	消防職員7人を増員し、職員数362人となる。
平成 5 年 3 月 27 日	上信越自動車道専用無線基地局を導入する。
平成 5 年 4 月 1 日	消防職員12人を増員し、職員数374人となる。機構改革により三部制導入 警防課装備係を廃止。各署庶務、予防、警防係を廃止し管理係を設置
平成 6 年 4 月 1 日	消防職員10人を増員し、職員数384人となる。警防課救急救助係設置
平成 7 年 4 月 1 日	消防職員3人の増員と、欠員1人の補充を行い職員数388人となる。
平成 8 年 3 月 28 日	高崎北消防署倉渕村分署庁舎、完成移転。鉄筋コンクリート造平屋建336.98㎡ 総工費109,515,231円
平成 9 年 3 月 26 日	高崎中央消防署滅菌室完成。鉄筋コンクリート造平屋建40.00㎡。総工費 9,500,720円
平成10年 3 月 9 日	高崎市役所へ無線アンテナ設置
平成11年 3 月 15 日	高崎北消防署滅菌室完成。鉄筋コンクリート造平屋建25.00㎡。総工費8,893,500円
平成11年 4 月 1 日	高崎市等広域消防組合を高崎市等広域市町村圏振興整備組合に組織統合し、 消防本部名称を高崎市等広域消防局に改める。 予防課保安係を設備指導係に、指導係を予防係に改める。 4署の救急隊を専任救急隊員とする。
平成12年 4 月 1 日	高崎中央消防署に特別救助隊を設置
平成12年10月27日	国際消防救助隊編成協力市町村(一部事務組合)として総務省消防庁に登録
平成13年 3 月 26 日	車両動態位置監視装置導入(AVM・GPS)。総工費206,850,000円
平成13年 3 月 27 日	高崎東消防署滅菌室完成。鉄筋コンクリート造平屋建25.00㎡。総工費8,085,000円
平成13年 4 月 1 日	高崎中央消防署特別救助隊を救助係に改める。
平成13年 4 月 1 日	国際消防救助隊員として、救助隊員8名を総務省消防庁に登録
平成13年12月 1 日	高崎市等広域消防局ホームページ開設
平成14年 3 月 25 日	消防支援情報管理システム導入。総工費23,520,000円
平成16年 4 月 1 日	総務課に情報化推進係を設置
平成16年 6 月 24 日	高崎中央消防署救急隊女性用仮眠室完成。総工費5,411,700円
平成17年 4 月 1 日	高崎中央消防署及び高崎北消防署に救急係を設置
平成18年 1 月 23 日	倉渕村、箕郷町、群馬町及び多野郡新町が高崎市と合併したことにより、倉渕村分 署を倉渕分署、箕郷町分署を箕郷分署、群馬町分署を群馬分署に改める。 (新町地区の消防事務は、高崎市が多野藤岡広域市町村圏振興整備組合に事務委託)
平成18年 3 月 18 日	安中市と松井田町との合併により、松井田町分署を松井田分署に改める。
平成18年 4 月 1 日	高崎東消防署及び安中消防署に救急係を設置 消防職員の定数420人、実員388人とする。
平成18年10月 1 日	榛名町が高崎市と合併したことにより、榛名町分署を榛名分署に改める。
平成19年 4 月 1 日	警防課救急救助係を救急係に改める。 消防職員の実員391人とする。 群馬県防災行政無線の運用開始
平成20年 1 月 9 日	緊急情報ネットワークシステム(Em-Net)の運用開始
平成20年 1 月 29 日	水槽付消防ポンプ自動車Ⅱ型2台購入、西分署、高崎東消防署へ配車
平成20年 2 月 28 日	高規格救急自動車1台購入、郷原分署へ配車
平成20年 4 月 1 日	総務課庶務係を総務課総務係に改める。 総務課情報化推進係を通信指令課に移管して情報システム係と名称変更 多野藤岡広域市町村圏振興整備組合消防本部新町消防分署へ8名の職員 を派遣する。 消防職員の実員400人とする。
平成20年 7 月 28 日	広報指導車2台購入、高崎中央消防署、西分署へ配車
平成21年 1 月 20 日	水槽付消防ポンプ自動車Ⅱ型1台購入、松井田分署へ配車
平成21年 1 月 30 日	支援車Ⅲ型1台購入、警防課へ配車

平成 21 年 2 月 10 日 化学消防ポンプ自動車 I 型（水槽車兼用）1 台購入 高崎北消防署へ配車

平成 21 年 4 月 1 日 警防課に指揮係を設置
警防課救急係を救急指導係に改める。
消防職員の実員405人とする。
はしご付消防ポンプ自動車 1 台購入、高崎中央消防署へ配車
高規格救急自動車 1 台購入、高崎北消防署へ配車
竣工、安中消防署庁舎、完成移転。
庁舎棟 鉄筋コンクリート造 3 階建（3 階に訓練塔 C を併設）1,472.75㎡
訓練塔 A 鉄筋コンクリート造 6 階建 359.11㎡
訓練塔 B 鉄筋コンクリート造 2 階建（一部鉄骨造） 95.2㎡
総工費 627,027,000円
消防救急無線デジタル対応のため通信指令課に消防救急無線共同整備係を設置
安中消防署に特別救助隊を設置

平成 22 年 6 月 8 日 水槽付消防ポンプ自動車 II 型 1 台購入、榛名分署へ配車

平成 22 年 10 月 1 日 高崎中央消防署の特別救助隊を高度救助隊に移行する。

平成 22 年 12 月 6 日 高規格救急自動車 2 台購入、高崎中央消防署、高崎東消防署へ配車

平成 23 年 1 月 18 日 救助工作車 II 型 1 台購入、高崎北消防署へ配車
水槽付消防ポンプ自動車 II 型 1 台購入、郷原分署へ配車

平成 23 年 2 月 1 日 通信指令システム出動車両運用管理装置（通信系）の一部更新

平成 23 年 3 月 18 日 消防局及び高崎中央消防署空調設備の改修。工事費79,999,500円

平成 23 年 3 月 28 日 指揮車1台購入、警防課へ配車

平成 23 年 4 月 1 日 高崎北消防署に特別救助隊を設置
消防職員の実員410人とする。
全国瞬時警報システム（J-ALERT）の運用開始

平成 23 年 11 月 1 日 連絡車1台購入、通信指令課へ配車

平成 23 年 12 月 7 日 高規格救急自動車 2 台購入、群馬分署、榛名分署へ配車

平成 23 年 12 月 22 日 水槽付消防ポンプ自動車 II 型 2 台購入、群馬分署、群馬分署へ配車
指揮車1台購入、高崎中央消防署へ配車

平成 24 年 2 月 14 日 小型動力ポンプ付水槽車1台購入、高崎中央消防署へ配車

平成 24 年 4 月 1 日 共同処理する事務の変更に伴い、組合名称を高崎市・安中市消防組合に改める。
多野藤岡広域市町村圏振興整備組合との消防事務の委託の廃止に伴い、高崎東
消防署新町分署を開設する。
消防職員数422人とする。

平成 24 年 12 月 12 日 高規格救急自動車 3 台購入、高崎中央消防署、新町分署、安中消防署へ配車

平成 25 年 1 月 10 日 水槽付消防ポンプ自動車 CD-I 型 1 台購入、新町分署へ配車

平成 25 年 3 月 12 日 消防救急デジタル無線移動無線機購入

平成 25 年 3 月 15 日 総務省消防庁から消防組織法第50条に基づく国有財産等の無償使用により、無線
中継車が配備される。

平成 25 年 11 月 28 日 高規格救急自動車 2 台購入、高崎北消防署、倉沢分署へ配車

平成 26 年 3 月 6 日 小型動力ポンプ付水槽車 1 台購入、高崎東消防署へ配車

平成 26 年 4 月 1 日 消防職員数421人とする。

平成 26 年 10 月 17 日 たかさき消防共同指令センター開設に伴い、消防局庁舎 3 階の改修を行う。
工事費16,162,200円

平成 26 年 11 月 13 日 高規格救急自動車 2 台購入、箕郷分署、松井田分署へ配車

平成 27 年 4 月 1 日 消防職員数422人とする。
県北西部6消防本部により、消防局内に、法定協議会「高崎市・安中市消防組合
ほか5 一部事務組合消防指令事務協議会」を設置

平成 27 年 11 月 11 日 高規格救急自動車 2 台購入、西分署、群南分署へ配車

平成 28 年 3 月 3 日 寄附により高規格救急自動車 1 台購入、高崎東消防署へ配車

平成 28 年 3 月 7 日 救助工作車Ⅱ型 1 台購入、安中消防署へ配車

平成 28 年 4 月 1 日 消防局庁舎3階において県北西部6消防本部(高崎市等広域消防局、利根沼田広域市町村圏振興整備組合消防本部、渋川広域消防本部、多野藤岡広域市町村圏振興整備組合消防本部、富岡甘楽広域市町村圏振興整備組合消防本部、吾妻広域町村圏振興整備組合消防本部)により、たかさき消防共同指令センターの運用を開始する。
消防職員数432人とする。
通信指令課情報システム係を総務課に移管する。
高崎中央消防署に救急医療相談係を設置、安中消防署に防災係を設置

平成 28 年 11 月 16 日 高規格救急自動車 2 台購入、高崎東消防署、郷原分署へ配車

平成 28 年 12 月 1 日 高崎東消防署南分署を開設する。
鉄骨造平屋建335.02㎡ 総工費217,382,400円
水槽付き消防ポンプ自動車Ⅱ型 1 台購入、南分署へ配車

平成 29 年 2 月 17 日 水槽付き消防ポンプ自動車Ⅱ型 1 台購入、箕郷分署へ配車

平成 29 年 4 月 1 日 消防職員数433人とする。
高崎中央消防署救急医療相談係を救急情報係に改める。

平成 29 年 10 月 30 日 高崎北消防署に女性専用仮眠室25.68㎡を増築
車庫を新設 アルミニウム合金造平屋建47.72㎡

平成 29 年 11 月 28 日 高規格救急自動車 2 台購入し、高崎中央消防署、高崎北消防署へ配車

平成 30 年 3 月 20 日 水槽付消防ポンプ自動車Ⅰ-A型 1 台購入、安中消防署へ配車

平成 30 年 3 月 20 日 支援車Ⅳ型 1 台購入、警防課へ配車

平成 30 年 3 月 20 日 広報指導車 1 台購入、南分署へ配車

平成 30 年 3 月 26 日 高崎北消防署群馬分署、完成移転。
鉄骨造 2 階建448.86㎡、総工費216,054,000円

平成 30 年 4 月 1 日 総務課情報システム係及び高崎中央消防署救急情報係を警防課に移管し、情報管理係に改める。

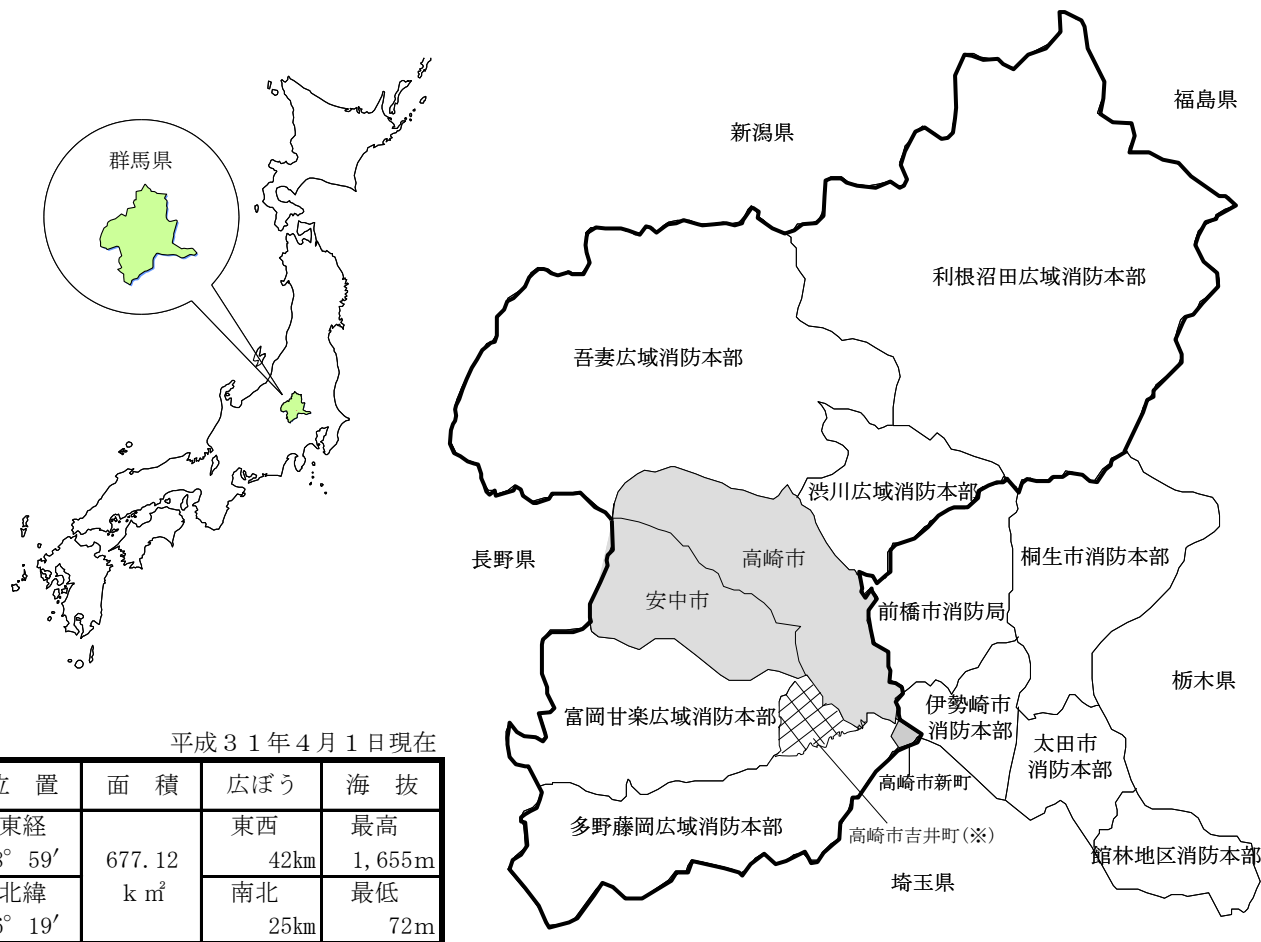
平成 30 年 12 月 13 日 高規格救急自動車 2 台購入、高崎東消防署、群馬分署へ配車

平成 31 年 3 月 6 日 水槽付消防ポンプ自動車Ⅱ型 1 台購入、倉渕分署へ配車
屈折はしご付消防ポンプ自動車 1 台購入、高崎北消防署へ配車

平成 31 年 3 月 13 日 寄附により高規格救急自動車 1 台購入、高崎中央消防署へ配車

平成 31 年 4 月 1 日 救急課を新設し、同課に救急指導係及び救急管理係を設置する(警防課救急指導係は廃止する。)
高崎北消防署において、常時、救急 2 隊運用を開始する。
消防職員数443人とする。

高崎市等広域消防局管内位置図



平成31年4月1日現在

位置	面積	広ぼう	海拔
東経	677.12 k m ²	東西	最高
138° 59'		42km	1,655m
北緯	677.12 k m ²	南北	最低
36° 19'		25km	72m

位置は高崎市等広域消防局

※高崎市吉井町地区は、多野藤岡広域消防本部の管轄
 ※太線内は、たかさき消防共同指令センターの運用管内

高崎市等広域消防局管内の面積、人口及び世帯数

平成31年4月1日現在

区分	面積 (K m ²)	人口 (人)	世帯数 (世帯)
管内			
高崎市	400.81	349,237	155,177
安中市	276.31	57,861	24,614
合計	677.12	407,098	179,791

※高崎市吉井地区は、含まれません。